JRTU JR九州労組ニュース
No. 29
2024 年
2 月 8 日
九州旅客鉄道労働組合
発行責任者　吉田祥司

JR連合第 36 回中央委員会開催

［春闘］純ベア 10,000 円を目安に統一要求へ

議長を務めた花田中央執行委員

ＪＲ連合は、２月１日香川県高松市で第 36 回中央委員会を開催し、2024 春季生活闘争方針を含む当面の活動方針を意思統一した。ＪＲ九州労組からは中央委員４名とＪＲ九州連合を含む９名の傍聴者が参加した。大会の冒頭、能登半島地震の犠牲者に対し黙とうを捧げ、その後の議長選出ではＪＲ九州労組から花田祐希中央執行委員が選出された。

ＪＲ連合荻山市朗会長は、挨拶で３年半に及んだコロナ禍がようやく収束してきた点に触れ、引き続き航空連合、サービス連合との３産別共闘を継続するとともに、連合や交運労協とも連携して、コロナ禍での対策の検証と次なるパンデミックに備え科学的見地に基づく感染防止と人流・経済活動の両立や、指定公共機関として使命を果たす産業や働く者への適切な支援を求めた。

議事では 2024 春季生活闘争について、ＪＲ産業の回復と発展に向けては、離職防止や人財確保はもとより採用競争力の強化が必要不可欠であり、ＪＲ産業に集うすべての仲間の賃金を「働きの価値に見合った水準」へ引き上げるため、10,000 円を目安に純ベア統一要求を行うことが提起され、ＪＲ７単組と全てのグループ労組が一致団結して取り組むことが要請された。

質疑では、ＪＲ九州労組を代表して鎗光俊勝中央執行副委員長が発言し、ＪＲ連合 2024 春季生活闘争方針を支持するとともに、今春にＪＲ九州は人事賃金制度の改正が実施されるが、それとは別の持続的な賃上げが人財の確保に必要だという強い思いで今次春闘に臨む決意を示し、グループ労組にも大きなうねりを生み出しＪＲ産業を盛り上げていく必要を訴えた。また、新中期労働政策ビジョンについて、ＪＲ連合に合わせ単組としても改訂作業を進めていることを報告し、最後に「課題解決には、時代の変化にあわせ、仲間と向き合い、労働組合が変化を恐れず歩み続けることが重要であり、ＪＲ連合にはその中心で運動を牽引してもらいたい。共に頑張ろう。」と激励した。

発言する鎗光中央執行副委員長